

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	生物
----	----

総括

試験時間	情報(自然) 75分<1科目>, 他 150分<2科目>	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	情報(自然) 300点<1科目>, 理・医 500点, 農 600点<2科目>	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年と同様、大問数は3題で問題量もほぼ変化がなかった。一つの大問で、多面的な知識を試そうとするねらいも昨年と同様である。問題の難易度も、標準的な理解を試すもの、比較的簡単な思考力を試すものが大半である。ただ、問題Ⅱは問題Ⅰや問題Ⅲとやや傾向が異なっており、最近の名大入試にもあまり見られなかったタイプの問題である。

基礎的事項の暗記、簡単な思考問題を確実にこなせる考察力、論述の能力が求められている。

〈特記事項・トピックス〉

問題Ⅱで水チャネルという比較的新しいテーマが出題されている（以前東大で出題されたのと同様の実験を取り上げている）。

〈合格への学習対策〉

教科書レベルの知識を確実に把握することが前提である。その上で、標準的な問題の演習をこなすこと。また、論述の練習は早い時期から取り組んでおきたい。最近の生物学の進展にも平素から関心をもっておくこと。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
Ⅰ	記述 論述 選択	Ⅱ	形質発現と核酸・ 核酸の分子構造, DNAの複製, 遺伝子の転写と翻訳	核酸の分子構造, DNAの複製, 遺伝情報の発現についての基礎的な知識が問われている。ほとんどが平易なレベルの問題なので、取りこぼしがないように。	やや易
Ⅱ	記述 論述 選択	Ⅱ	タンパク質の働き・ 水チャネル, いろいろな膜タンパク	水チャネルという比較的新しい膜タンパク質を主テーマとし、実験結果をもとにした思考力を試す小問が設定されている。問題文が長いので、実験内容を正確に読み取ることが大切である。	標準
Ⅲ	記述 論述	Ⅰ・Ⅱ	植物の調節・形質発現 バイオテクノロジー, 分化と遺伝子, 植物ホルモン	近年の名大でよくみられる、数多くの空欄を埋める設問がある。「iPS細胞」という、新しい用語も問われている。植物のバイオテクノロジー, 植物の再生, 開花の調節, 植物ホルモンと多彩な知識が問われている。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。